AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION
THE Y'S MEN'S CLUB
OF
TOKYO SETAGAYA
"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"
C/O TOKYO YMCA MINAMI CENTER 3-23-2 MIYASAKA, SETAGAYA-KU, TOKYO, 156-0051 JAPAN

国際会長主題	「輝かそう、あなたの光を」	Ulrik Lauridsen（デンマーク）
アジア太平洋地域会長主題	「新しい時代とともに、エレガントに変化を」	Chen Ming Chen（台湾）
東日本区理事主題	「未来に向けて今すぐ行動しょう」	佐藤重良　（甲府21）
東新部部長主題	「All 東新部、始動！Change！2022 ラストスパート、ポスト 2022 始動」	深尾香子（東京多摩みなみ）
クラブ会長主題	「心を尽くして YMCA のために」	小川圭一　（東京世田谷）

会　長　小川　圭一
副会長
書　記

2023 年 2 月会報

強調テーマ

＊T O F. F F & H T W ＊

Time of Fast, Family Fast. & Heal the World（世界を癒そう）

会　計　小原　武夫
直前会長　峰　毅
担当主事　江尻　明子

†今月の聖句

「神に従う人の道は　輝き出る光
　進むほどに光は増し、真昼の輝きとなる。」

The road of the wicked, however,
is dark as night.
They fall, but cannot see what
They have stumbled over.

旧約聖書　箴　言　４章-１８節

（寺門　選）

と　き　令和５年２月 17 日（金）18：30～19：30
ところ　東京 YMCA 南コミュニティーセンター3F
電話　０３-３４２０－５３６１
ハイブリッド開催

司　会　三浦　功雄　君
１．開会点鐘　小川　圭一　会長
２．ワイズソングと信条　一　同
３．ゲストとビジター紹介　小川　圭一　会長
４．今月の聖句朗読　寺門　文雄　君
５．東京 YMCA/liby の最新の話題を
　担当スタッフ　押山　愛紀子（セサミ）さん
　　高橋　一浩（ろべりー）君
６．ハッピーバースデイ　2/8　三浦 功雄 君
　　2/10　峰　朋子さん
７．結婚記念日　2/12　峰　毅 夫妻
８．ニコニコ献金
９．諸報告
10．閉会点鐘　小川　圭一　会長

１月のデータ				
会員在籍　１３名 出席率　８４％ 第２例会 １月２６日 YMCAすずらん会再会	例会出席者　１月 20 日（金） 会　員　11 名 メネット　0 名 イキャップ　0 名 ゲスト　3 名 ビジター（含むzoom）3 名 合計　17 名 すずらん会　再開 ゲスト　11 名 スタッフ　8 名 合　計　19 名	１月のＢＦ他献金 切手　０ｇ 現金　102,900 円 累計切手　０ｇ 2022～2023 年度 自主献金については今期も クラブからの献金とする	ニコニコファンド １月　10,000 円 年度計　45,181 円	

本日のメインプログラム

1月7日の在京ワイズ合同新年会、その告知チラシ作りとイベント運営を強力にサポートして下さったのがLibyの皆さんでした。 おかげさまでイベントは大成功。 応援している Liby に応援してもらいました。 その皆さんに改めて今後の予定や計画を伺います。

押山　愛紀子（セサミ）さん

国際基督教大学卒業。学生時代はYWCAのボランティアとして活動。サークルでは学園祭実行委員として主にステージ音響関係を担当した。1年間の休学期間は学内の子どもキャンプの運営を中心に活動したり、北海道のゲストハウスで多様な人と出会ったりしながら過ごした。卒業後は東京YMCAに入職。西東京コミュニティーセンター、山手コミュニティーセンター、libyと拠点を移しながら、キャンプ、語学、定例活動などを担当してきた。最近の趣味はバスケ観戦。

高橋　一浩（ろべりー）君

法政大学卒業。学生時代にYMCAと出会い西東京センターでボランティアリーダーとして活動。国際政治学科だったので、毎年夏に海外へ渡航していた。一番印象に残っているのはミャンマーとタイの国境付近に住む不法移民の人たちの村での経験。人が安心して過ごせる居場所の大事さを学んだ。その後、libyのスタッフとして東京YMCAに入職。1年のアルバイト期間と3年を経て現在に至る。趣味は弾き語り、将棋。

☀　1月例会報告

大江浩 自分史を語る～出会いと繋がり～その2

社会福祉法人　興望館：常務理事　大江　浩

卓話：要約

興望館（創立1919年）－日本キリスト教婦人矯風会外国人宣教師が始めたキリスト教セツルメント（地域福祉）

興望館沓掛学荘（軽井沢の東京都管轄の都外施設）は、幼児から高3生まで30名が入居する小規模ユニットケア型の児童養護施設。約9割が被虐待児で、発達に課題があったり、心理的ケアが必要な児もいる。全員が都出身で家族的生活を送っている。沓掛学荘は1940年にキャンプ場として始まり、戦時中は疎開児童や戦争遺児、戦後は戦災孤児が暮らす児童養護施設となり、82年の歴史を持つ。

興望館（創立1919年）は、日本キリスト教婦人矯風会外国人宣教師が始めたキリスト教セツルメントである。下町墨田区で、貧困や困窮状況にあった女性の自立支援と託児所から始まった。1929年、日本人初代館長に就任した吉見静江氏は米国NYでソーシャルワークを学んだセツルメントの先駆者である。興望館の創立時はスペイン風邪のパンデミックの時代だった。壮絶な現場であったに違いない。興望館の名付け親は当時婦人矯風会会頭であった久布白落實氏（東京都民教会の創立牧師）であり、旧約聖書から「希望を興す＝Door of Hope」館と命名した。キリスト者の女性たちは絶望にあっても希望を捨てず、祈りつつ日々の働きに献身的に従事したのである。

興望館は、1923年9月1日、関東大震災に見舞われた。興望館の敷地は賀川豊彦氏の支援拠点となり、賀川は本所基督教産業青年会を設立し、震災復興支援から社会事業を展開した。興望館は、東京大空襲でも大きく被災し、幾多の苦境を乗り越えて、現在に至る。

阪神・淡路大震災（1995）から東日本大震災（2011）－私のAnother Story

阪神・淡路大震災（以下「1.17」）以降の、震災復興支援の過程で、私はBurn-out（燃え尽き）症候群寸前の状況に陥った。震災支援の途上で、親しい先輩・仲間・後輩たちがYMCAを離れていった。年間予算は震災後に震災前比で半減し、事業存続の危機からの再建は困難を極めた。

更に「1.17」から2年後に、神戸A少年事件が起こり、私は事件現場の自治会長として公私ともに非常事態対応に追われた。度重なる悲惨な出来事の只中で、精神的に疲弊し、アイデンティティ危機に陥り、無力感に苛まれた。そうした中で、元関西いのちの電話事務局長であった長尾文雄先生や西原由紀子先生（故人・同じく関西いのちの電話事務局長経験者で、後に自殺防止センターの創設に関わる）の言葉に支えられた。西原先生は「1.17」時、心の危機介入となる電話相談対応の責任者だった。その相談役として西原先生からの真夜中の0時の電話を受け続けたのは長尾先生である。長尾先生は若い時から難病で長く車いすの状態にあり、自宅で人を支え続ける人を支え続けたのである。私自身の大きな励ましとなった。

私が絶望にあった時、妻の言葉によって、暗闇のトンネルから光を見出したことも言い添えたい。

「1.17」と少年事件の時、統合失調症の治療・研究の第一人者である中井久夫先生（精神科医）、トラウマケアの専門家である小西聖子先生（精神科医）、書籍「心的外傷と回復」（ハーバード大学医学部准教授ジュディス・ハーマン著・中井久夫訳・小西聖子解説、「みすず書房」、1996）、そして「1.17」直後から28年間にわたる恩師である本間玲子先生（元米国SF衛生局副局長）との出会いと繋がりによって私自身が救われた。そして、私の今がある。

一例は以下の言葉である。

中井久夫先生－「身体の傷は8か月ほどすれば瘢痕形成がいちおう完成するが、心の傷は40年たっても血を流

すのです」

ジュディス・ハーマン先生ー「外傷的な過去との和解を達成した後の生存者には未来を創造するという課題が待ち受けている」

小西聖子先生ー「ともにいることは、援助の第一歩であり、最後の砦である」

本間先生には計2回、米国SFでの「災害時の緊急支援従事者のための心のケア研修」(1996, 2011) でもご指導を頂いた。研修での多くの教訓は私の心の支えとなった。教訓の一つは、「異常な状況下での、異常な反応は正常」。私は震災後に起こった自分の心身の反応は、自分が弱いだからだ」と考えていた。私はその言葉に出会い、自分にNoではなく、Yesと言い、あるがままの私を受け止めた。

もう一つは「災害の後、最も大切な3つの「T」は”Tear, Talk & Time”」。Tear=涙を流すことを許すこと／受容すること、Talk=語り合い分かち合い繋がること、Time=悲しみに浸る時を大事にすること、という意味である。

私は東日本大震災の支援にも関わり、その過程で支援者が抱える問題に直面した。死別・喪失、Survivor’s Guilty、「あいまいな喪失」、支援者特有のストレス、燃えつき・孤立等である。「3.11」後、2011年秋に2回目の米国研修を経て、YMCA東山荘を会場に臨床心理専門家との協働による「支援者の心のリフレッシュプログラム」に計20回取り組んだ。”Care GiverへのCare”即ち支える人を支える、ということである。これは非常時に留まらない。日常的に、福祉や医療等、対人支援に従事する人、子育てや介護にも関わる人にも言えることである。

最後にートルコ大地震(1999)と「子どもボランティア」からの教訓

私は「1.17」以降、トルコ・台湾等、計7カ国の災害支援に従事した。自らが受けた恩を、他の国の困難にある人々へ還していく”Pay forward“＝「恩送り」の活動であった。トルコ地震(1999)のエピソード。トルコ大地震での支援は第5次隊まで続いた。(全国YMCAの協力により支援、私は第2次隊の副団長として参加。同2次隊には当時南センター職員だった菅野さんも参加)

第3次隊の時のこと。震災で被災した小学生の女児4人が同じく被災した年少の子ども達へ絵本の読み聞かせや遊び相手の「子どもボランティア」を始めた。遊ぶ子ども達が増え、第3次隊が大きめのテントを寄贈したところ、女児達は「愛と望みのテント」と名づけて、大人達を開所式に招いた。新たなテントを贈ると、今度は「白いハトのテント」と名づけた。彼らは、「平和の使徒」だった。「自分たちにも何かできることがある」と、自主的に活動を始めた女児達の行動に、私は深く感激したのだった。

興望館の成り立ちから、震災支援活動。特に支援活動において、バーンアウトし、多くの方々との交流により、立ち直る過程を詳細にお話しいただきました。

私たちが、大切にしなければいけない事柄を改めて気づかせていただいた一時となりました。　　(小原　記)

当日は、伊藤幾夫、江里夫（多摩みなみ）会員もご参加

お 知 ら せ

2023年2月：国際会長の交代

Samuel Chacko サミュエル国際会長（インド） 辞任

Ulrik Lauridsen ウルリック・ラウリドセン　新・国際会長（デンマーク）

主　題：　輝かそう、あなたの光を

スローガン：　良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である

☀ YMCAすずらん会 再会です

YMCA すずらん会、とても残念で少し悔しい自粛期間を過ごしてきました。

特にお借りしている教会は、礼拝の讃美歌を声を出さず黙読して来ましたが、昨年後半より声を出して賛美するようになさいました。これに伴い、外部団体も歌う事を許して奨励していただきました。

一方でニュース、昨年はこの活動が20年で、世田谷区から表彰された事です。

満を持して、おっかなびっくり感染対策を考えながらのお試し再開です。

共に耐えて待って下さった演奏チーム、社協スタッフ、YMCAの皆さん、そして歌の大好きな皆さんに感謝します。今月来月で歌いたい歌を列記しました。

歌の町/ たき火/ 冬景色/ 冬の星座/ 箱根八里/ 荒城の月ペチカ/ 肩たたき/ 雪山賛歌/ 母さんの歌/ 銀色の道/ 雪/とんがり帽子/ 浜辺の歌/ リンゴの唄/ 幸せなら手をたたこう/希望のささやき/ 芭蕉布/ 手のひらを太陽に/ カチューシャ 汽車/ どじょっこふなっこ/雪の降る町を/ 早春賦/ ふるさと

☀　YMCA 保育園ねがい

園庭の球根と苗は寒さの中、春を待ってすくすく育っています。パンジーの花びらがケーキのトッピングになったり、小さな芽を不思議そうに見つめる子どものまなざしに生きるエネルギーを感じています。

２月８～10 日「きらきらウィーク」と名付けた発表会を行い、年下のクラスを招待して一緒に遊び、製作した作品をプレゼントしました。ほし組（３歳児）牛乳パックの独楽と紙相撲、つき組（４歳児）魚釣り、にじ組（５歳児）お店屋さんごっこ。乳児クラスの子どもたちが目をキラキラさせて、年上児の作ったものを大切そうに持ち帰る姿にそれぞれの成長を感じた楽しい日々でした。３月の卒園式を前にすっかりつぼみをふくらませ開花を待つ子ども達です。

（今井園長　記）

☀　会長通信　２３０２

コロナ禍で久しく休んでいた YMCA すずらん会を１月に再開。参加者 11 人、うち初参加の方がお二人。ボランティアスタッフは８人。

今回から、参加費のほかにウクライナ支援や Liby の活動を推進する YMCA に対するワンコイン募金を始めた。また、住所録の無い YMC すずらん会だが、初代伴奏者の葬儀参加者名簿をもとに、電話作戦を行う。
2 月の参加者の皆さんとの再開が楽しみである。

☀　ＹＭＣＡ　ＮＥＷＳ

1. ス募金」は 1 月 20 日現在、177 の個人・団体から合計 2,341,000 円が寄せられている。国際協力募金、ウクライナ募金、障がい児プログラム支援、フレンドシップファンドのために用いる。

2. 関東大震災から 100 年になることを記念し、1 月 22 日に全社協・灘尾ホールにて内閣府主催「防災とボランティアのつどい」が開催された。東京ＹＭＣＡから秋田正人氏（教育・保育事業部／地域福祉事業部統括）が発表者の一人として登壇し、当時の東京ＹＭＣＡによる救護活動の様子などを紹介した。民間団体による貴重なボランティア活動を振り返り、現在と未来の防災を考える機会となった。

3. 2023 年度より品川区北品川（御殿山トラストタワー内）に、「東京ＹＭＣＡウエルネスガーデン品川御殿山」を新規オープンし、主に幼児から高校生を対象とした水泳クラスを開設する。またプレオープン企画として春休み中に短期水泳講習会を実施する予定。１月 25 日から受付を開始する他、開設に向けた諸準備が進められている。

4. パートナーシップ関係にあり長年支援を続けているバングラデシュＹＭＣＡの活動を視察するため、2 月 19 日～26 日に 5 名の職員が現地を訪問する。エディルプールＹＭＣＡとビリシリＹＭＣＡのＮＦＰＥ（働く子どもたちの学校）を見学する他、ユースの交流等を予定している。野外教育からも 1 名のスタッフ(中元美佳)が参加

5. ２月９日～１１日の３日間「市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO」が開催され、実行委員として押山愛紀子が参加し、様々なボランティア団体との社会課題について考える機会を持った。

今後の主な行事日程

・「愛恵エッセイ賞表彰式」
3 月 4 日　オンライン（愛恵福祉支援財団との共催）
・「第 32 回チャリティーゴルフ大会」
4 月 13 日　会場：ＰＧＭ総成ゴルフクラブ
・「東日本地区ＹＭＣＡ役員研修会」
4 月 15 日　オンライン
講師：寺島実郎氏（一般財団法人日本総合研究所会長／多摩大学学長）

6.**感　謝**

・1 月 7 日開催の「在京ワイズ合同新年会」（ウクライナ支援チャリティーコンサート）の席上献金より、東京ＹＭＣＡウクライナ募金として 92,170 円をいただいた。

Liby　チャリティーコンサート

3 月 11 日（土）　入場料　2,000 円
会場　YMCA アジア青少年センター
開場　13：15　開演　13：30
第一部　　三菱商事コーラス同好会
第二部　　越智光輝とゆかいな仲間たち